

モササウルスの「かたち」

ワカヤマソウリユウの化石は、全身の多くの部位が非常に保存の良い状態で発見されたため、細かな特徴が残されています。それぞれの部位の特徴について、詳しく見ていきましょう。今回は、脊椎を取り上げます。

●ヒトの骨との比較

首の骨、背骨、尻尾の骨をまとめて脊椎と呼びます。ヒトを含む哺乳類の首の骨の数は7個と決まっております。首の長いキリンでもその数は変わりません。モササウルスの多くも、哺乳類と同じ7個です。ただ、爬虫類の場合はその数があまり決まっておらず、プレシオサウルスのような首長竜では、70個以上にもなる種類があります。背骨は、哺乳類では肋骨の付く胸の背骨（胸椎）と、肋骨がないおなかの背骨（胴椎）に分かれますが、爬虫類は全ての背骨に肋骨が付いています。おなかの肋骨がないことで、哺乳類は身をかがめたり、背骨をばねにして大きくジャンプしたりすることができます。

尻尾はヒトの場合、二足歩行を始めて退化しましたが、多くの生き物は尻尾を持っています。海で泳ぐほとんど

の生き物は、尻尾を泳ぐことに使います。モササウルスも大きく発達した尻尾で、かなりのスピードを出して泳いでいたと考えられています。

●爬虫類と哺乳類の背骨の動かし方

私たち哺乳類が背骨を動かすときは、主に前後に動きます。それに対して魚や爬虫類は、背骨を左右にくねらせて移動します。哺乳類のクジラやイルカは、水泳のバタフライのように尻尾を縦に振る一方で、絶滅したモササウルスや魚竜などは横に振っていました。

●ワカヤマソウリユウの背骨の最大の特徴

ワカヤマソウリユウの背骨の途中に、突起が前向きになっている部分が見つかりました。（図の吹き出し）

これは、背びれが付いているイルカなどの特徴と同じでした。化石に残ったこの特徴から、ワカヤマソウリユウはモササウルスの中でも背びれがあった可能性が考えられるようになります。これまでに知られていたモササウルスのイメージを大幅に変えるきっかけとなっています。

